

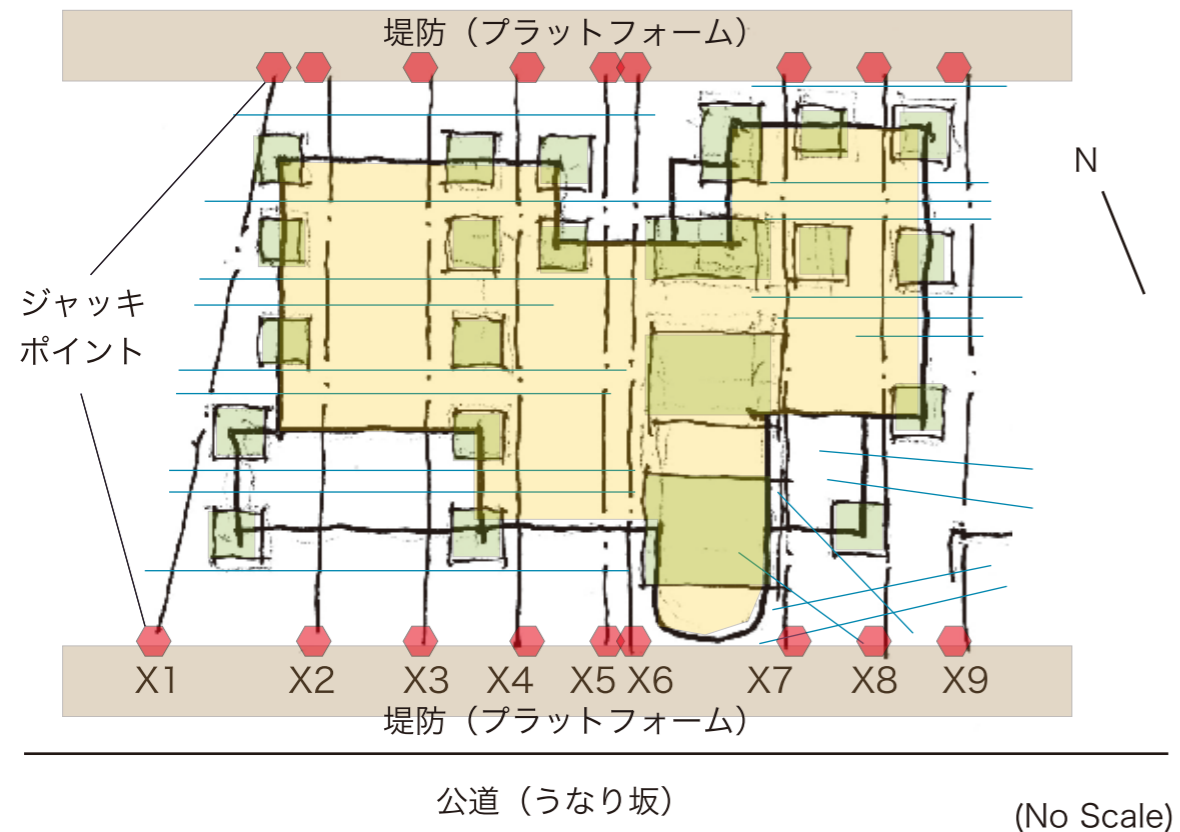
「堤防ブリッジ工法」：歩行者防護 RC プラットフォーム+トラスブリッジによる曳き屋架台置換工法



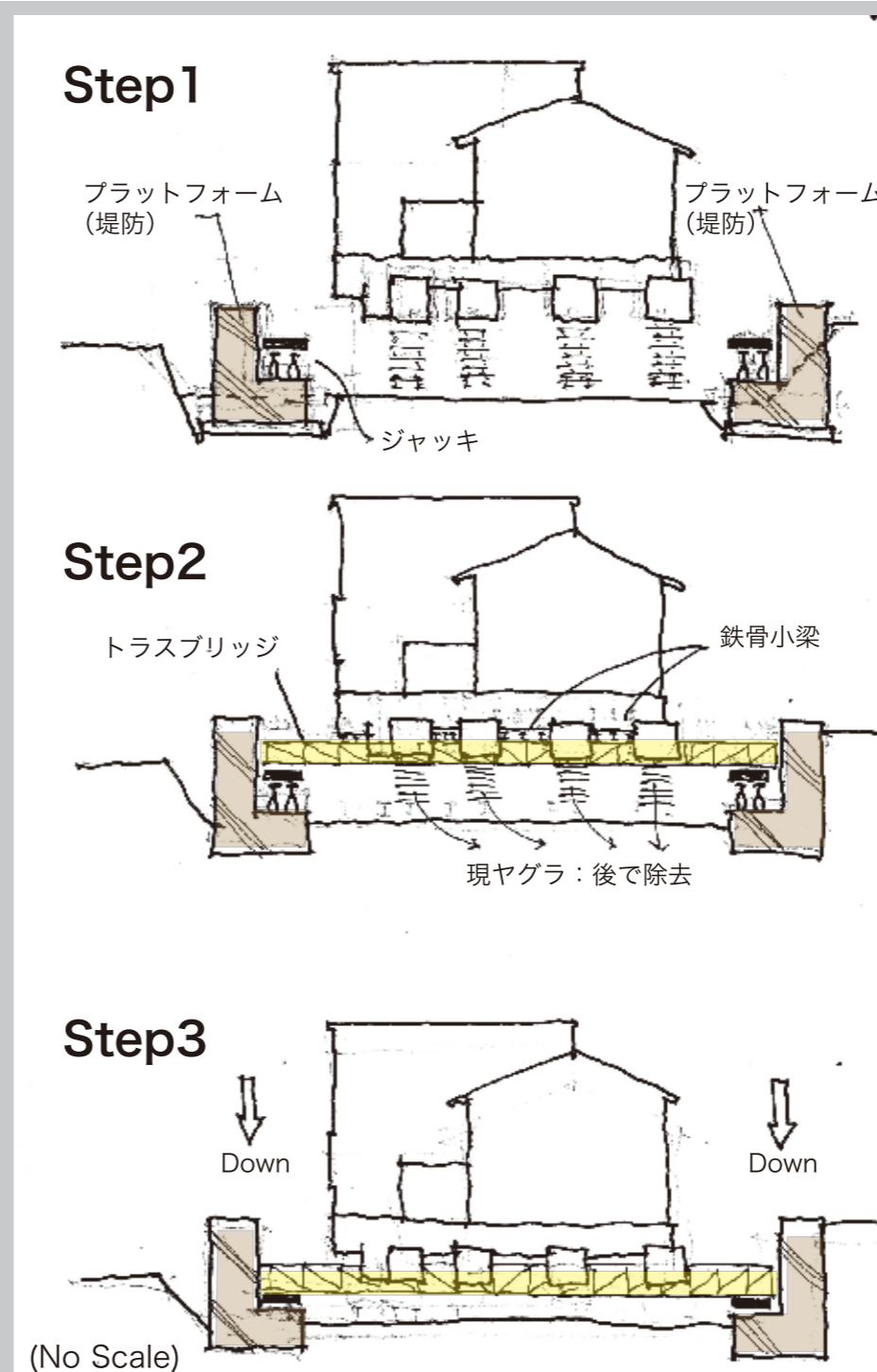
向かいの高台・仮囲い隙間から撮影した現状写真

■ 現状観察

旧地中梁に接続した後施工フーチングの位置をみると、柱間のなかに「すき間」を多くみる。ここは別途ブリッジなどで支持するのに活用できる。それらを離れた場所から確認すると、両端含め、9通りほど通せるとみられた。



仮囲い隙間からフーチングのすき間を探して撮影した写真



■ 工程概略 (案)

Step0

高置状態で被災：しかし南北方向基準線7列の空間が開いているのでジャッキアップに活かすことが可能。まずその箇所の選出と計測を行う。両端を含めて合計9本程度のトラスブリッジを挿入することができると仮定。

Step1

歩行者防護とトラスブリッジの架台を兼ねて、L型のRCプラットフォームを設置する。概ね幅3m高さ3m、長さ15m程度。

Step2

予めトラスブリッジを丘組みし、トラスブリッジの吊上げが可能なラフタークレーンを配備する。現場で引き出しワイヤーを挿入しておき、ワイヤーに引っ掛けて、クレーン吊りしたブリッジを引張り、これをワイヤーで建物直下に挿入する。丘陵地ゆえ寸法注意。

Step3

トラスブリッジと鉄骨小梁で、一時的に建物を空中に浮かべる。現在のヤグラ構成材(クリ)をスピーディに除去する。つぎに予め曳き屋(敷地内移動)のため、移設用レールを敷いておき、その後、ジャッキダウンを行い、移設へと取りかかる。

※トラスなど実際の資材寸法は、建築・土木の構造力学の専門家の意見を仰ぐ。

■ この工法の利点

- ・ 補講する一般市民への事故を防ぐため【堤防】を初めに設置する方法である
- ・ 鉄骨トラスブリッジは後で解体・リサイクルが可能である
- ・ 主に既存地中梁を支えるのでフーチングと地中梁の接合不良部回避できる